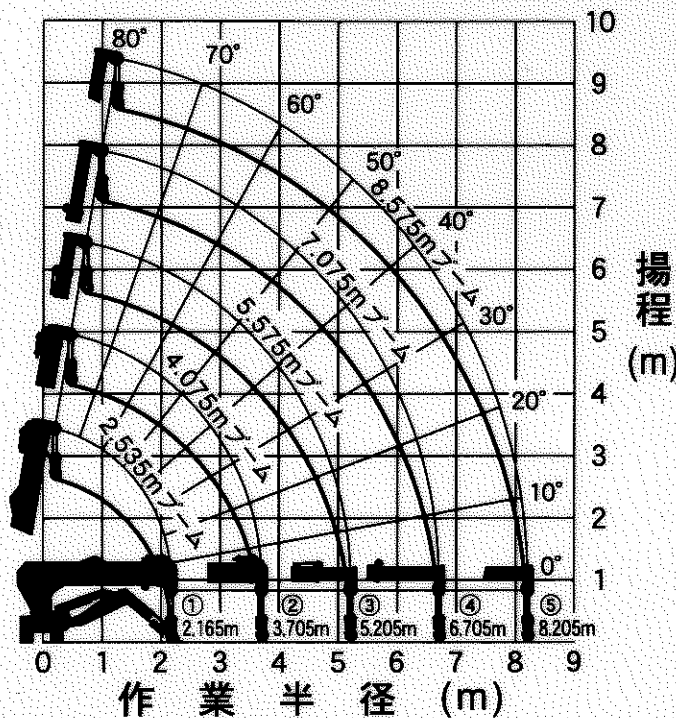


かにクレーン MC285CB

作業範囲図



定格総荷重表

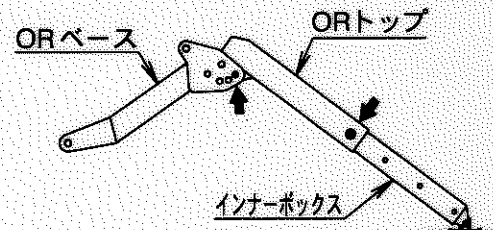
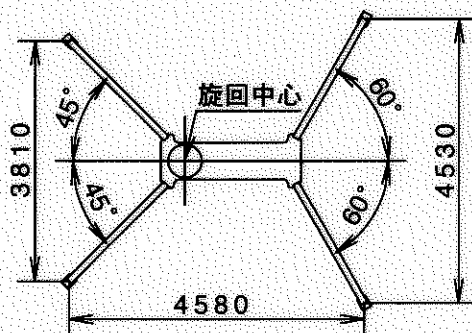
アウトリガ最大張出時定格総荷重表							
2.535m/4.075mブーム		5.575mブーム		7.075mブーム		8.575mブーム	
作業半径 (m)	定格総荷重 (t)	作業半径 (m)	定格総荷重 (t)	作業半径 (m)	定格総荷重 (t)	作業半径 (m)	定格総荷重 (t)
1.4 以下	2.82	3.0 以下	1.22	3.6 以下	0.82	4.0 以下	0.55
1.5	2.52	3.5	0.97	4.0	0.74	4.5	0.40
2.0	1.92	4.0	0.78	4.5	0.58	5.0	0.34
2.5	1.57	4.5	0.63	5.0	0.48	5.5	0.30
3.0	1.22	5.0	0.53	5.5	0.43	6.0	0.27
3.5	0.97	5.205	0.53	6.0	0.38	6.5	0.23
3.705	0.92			6.5	0.35	7.0	0.20
				6.705	0.33	7.5	0.18
						8.0	0.15
						8.205	0.15

アウトリガ最大張出以外定格総荷重表							
2.535m/4.075mブーム		5.575mブーム		7.075mブーム		8.575mブーム	
作業半径 (m)	定格総荷重 (t)	作業半径 (m)	定格総荷重 (t)	作業半径 (m)	定格総荷重 (t)	作業半径 (m)	定格総荷重 (t)
1.5 以下	1.72	3.0 以下	0.51	3.6 以下	0.40	4.0 以下	0.33
2.0	1.07	3.5	0.41	4.0	0.33	4.5	0.28
2.5	0.63	4.0	0.33	4.5	0.28	5.0	0.23
3.0	0.52	4.5	0.28	5.0	0.23	5.5	0.18
3.5	0.39	5.0	0.20	5.5	0.18	6.0	0.16
3.705	0.35	5.205	0.20	6.0	0.16	6.5	0.13
				6.5	0.13	7.0	0.10
				6.705	0.12	7.5	0.08
						8.0	0.07
						8.205	0.06

1. 本図はブームのたわみは含んでいません。
2. ③の状態は ■ 印の半分が2段目ブームより出た状態です。
3. ④の状態は2番目の ■ 印の半分が2段目ブームより出た状態です。

1. 定格総荷重表は、負荷時のたわみを含んだ実際の作業半径に基づいており、またアウトリガを使用してクレーンを水平に設置した時の吊り具等（フック質量30kg）の質量を含んだ値です。
2. 3段目ブームを少しでも伸ばした時は、5.575mブームの定格総荷重で作業して下さい。
3. ■ 印の半分が2段目ブームより出たら、7.075mブームの定格総荷重で作業して下さい。
4. 2番目の ■ 印の半分が2段目ブームより出たら、8.575mブームの定格総荷重で作業して下さい。
5. 乱暴なクレーン作業は大変危険です。安全なクレーン作業に心がけて下さい。

アウトリガ最大張出状態図



インナーボックスを「最大張出位置」までに引出し、ORベースのポジションピンの位置が「最大」の所に差した状態

1. インナーボックス、及びORベースのポジションピンの位置を1つでも縮めたら、最大張出以外定格総荷重表の値で作業してください。
2. 荷を吊って旋回する場合、本体の前後と左右では、安定性が異なる場合があります。作業半径は出来るだけ短くして、転倒に注意して作業を行なって下さい。
3. クレーン作業時には、必ずアウトリガを使い本体を水平に保って下さい。

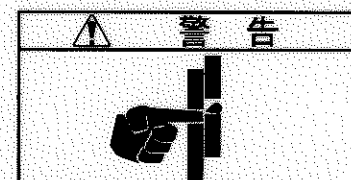
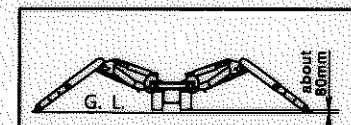
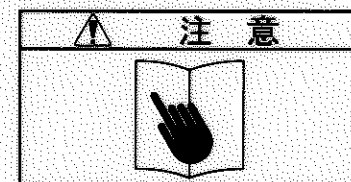
特性について

- (1) 同じ作業半径でも、ブームの段数により性能が異なります。また、作業半径がわずかに変わるだけでも吊上げられる荷重は大きく変化します。
- (2) クレーン吊上げ能力は作業半径が大きくなるに従って、小さくなります。
- (3) アウトリガの張出状態により、吊上げ能力が変化します。
- (4) ブーム方向（前方、側方、後方）により安定度が異なります。
ブーム側方が最も安定度が悪いので、前方から側方へ旋回する場合は、定格総荷重表を守って作業して下さい。

⚠ クレーン使用上の注意事項

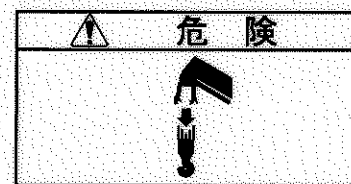
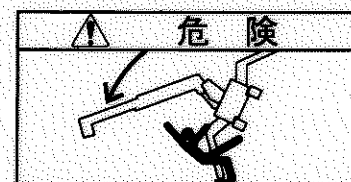
(1) 作業前

- ① 取扱説明書をよく読み理解してから作業を行って下さい。
- ② 作業開始前点検を励行して下さい。
- ③ クレーン作業を行うときは、必ずアウトリガを使い、機体を水平状態にして下さい。
- ④ アウトリガは原則として最大張出状態に設置して下さい。
- ⑤ ゴムクローラが地上より80mm前後浮き上がるようにして下さい。
- ⑥ アウトリガ等のピン穴には指を入れないで下さい。
- ⑦ 設置する際はポジションピンと抜け止め用ピンを差し込んで下さい。
- ⑧ フックを巻上げて、巻過警報装置が作動するか確認してください。
(機械が正常ならば、巻過状態ではブザーが鳴り、巻上動作が停止します)
- ⑨ このクレーンで作業する場合、下記の資格を持っていないと作業できませんのでご注意ください。
クレーンの運転をする場合・・・小型移動式クレーン運転技能講習、クレーン運転士
玉掛け作業を行う場合・・・玉掛技能講習



(2) 作業時

- ① アウトリガの設置状況、地面の状態により、安定吊り上げ荷重は変わりますので、アウトリガの受け皿が浮き上がるようなクレーン作業は危険ですから、行わないで下さい。定格総荷重表を守って作業して下さい。
- ② 過負荷作業は転倒、破損の危険がありますので行わないで下さい。
- ③ クレーン作業を行う場合、荷が振れないよう注意して下さい。
- ④ 荷の横引き、縦引き、斜め吊りはクレーン破損の危険がありますので、行わないで下さい。
- ⑤ 荷物を吊った状態で、クレーンから離れないで下さい。
- ⑥ クレーン運転中は、ブームの下に人が入らないようにして下さい。
- ⑦ フック巻き上げ時、及びブーム伸時は巻き過ぎに注意して下さい。
フックの巻き過ぎの状態に近づくとき巻過警報装置が作動し、ブザーが鳴ります。
ブザーが鳴らないようにフックを十分下げて使用して下さい。



(3) 走行時

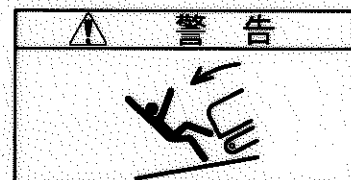
- ① 走行時は必ずアウトリガを格納状態にし、フックはフック掛けに固定して下さい。
- ② 旋回及び悪路走行時はスピードを落として下さい。
- ③ 坂道で駐停車する場合は、必ず輪止めを使用して下さい。
- ④ 傾斜面での走行やトラック積み込み時は、走行運転側が必ず山側になるような車両の向きで運転して下さい。

(4) 作業後

作業終了後は、必ずメインスイッチ（キースイッチ）をOFFにしてください。

(5) 充電の手順

- ① キーがONになっていることを確認してください。
- ② 充電口のカバーを開けてください。
- ③ 充電ケーブルを充電口に確実に接続してください。（充電が開始されます。）
- ④ モニタにて充電されていることを確認してからキーをOFFにしてください。
- ⑤ 充電終了後は必ずカバーを閉めてください。



(6) 保管時

充電器を使用、又はクレーンの本体を保管する際は、水のかからない涼しい場所を選んでください。

(7) 点検・整備

- ① 作業開始前点検及び月例、年次の定期自主検査を実施して下さい。
- ② 点検、検査で異常が認められた場合は直ちに修理を行って下さい。
- ③ 取扱説明書等に定められた基準に基づいて消耗品の交換、油脂類の給脂、補充、交換等の整備を実施して下さい。

⚠ その他の注意事項

- (1) クレーンを誤って使用した場合、死亡または重傷に至る重大事故の恐れがあります。
- (2) クレーン作業前には取扱説明書を読み、安全な操作方法を習得して下さい。